

【様式】

## 令和5年度 ろう学校 学校関係者評価書

(問)

- ・スクールプランに関する学校の取組及び学校評価の成果と課題が適切か。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策, 向上策が適切か

(意見を聞いた方)

福井県ろうあ協会会長, 福井県ろうあ協会副会長(代理), 本校PTA会長 計3名

(意見欄)

〈教育支援部〉

- ・難聴児当事者や保護者が悩んだり壁に当たったりしたときの対応の一つとして, 病院や行政に配付している「ろうあ協会のパンフレット」等を活用してほしい。
- ・嶺南在住の難聴の子どもたちへの対応がよく分かった。

〈各学部〉

・情報保障の機器が良くなっても, 生徒が自分で切り開いていく力を磨いていくことも大事である。そのために, ろうのモデルである成人ろう者を講師として招いたり, 広い経験をもったろう者を呼んで交流を図ったりすることも大切な活動だと思う。各学部でそのような取り組みをしていることが分かったし, 今後も継続してほしい。

- ・デフスポーツを活動に取り入れることもよいと思う。デフリンピックのパンフレットも活用してほしい。
- ・健聴者と一緒にするスポーツを部活動等で進めているところがあるようだが, 今後も広がっていくとよい。

〈学校全体〉

・子どもと保護者とのコミュニケーションが難しいときがある。子どもは自分からの発信はするが, 保護者からの話を正確に理解できなかつたり, 或いは素直に聞けなかつたりするような状況もある。そんな中で, 学校における子どもへの支援や, 保護者同士がコミュニケーションを図る場は貴重だと思う。

〈その他〉

・学校を卒業した後, 社会に出て壁に当たったときに, ろうあ協会や聴覚障害者センターなどに相談するためのパイプの役割が必要だと思う。関係機関として学校と協力し合っていきたい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・今年度の取組については, 保護者や学校関係者からは概ね良いとの評価を得た。今後は, 各学部等の課題の改善策や学校関係者評価等を踏まえ, 次年度の計画作成に生かしたい。
- ・デフスポーツへの取組や成人ろう者との学び合いなど今後も継続したい。
- ・関係機関とも連携を図りながら乳幼児期から成年までの切れ目ない難聴支援体制を整え, 当事者や保護者が活用できるようにしたい。
- ・授業実践において, 個別に最適な学びを保障しながら, 協働的, 探究的に学ぶ視点も大事にしたい。他学部の授業実践を参観し, 学部の枠を超えて教員同士が交流して, 互いに研鑽を深めたい。